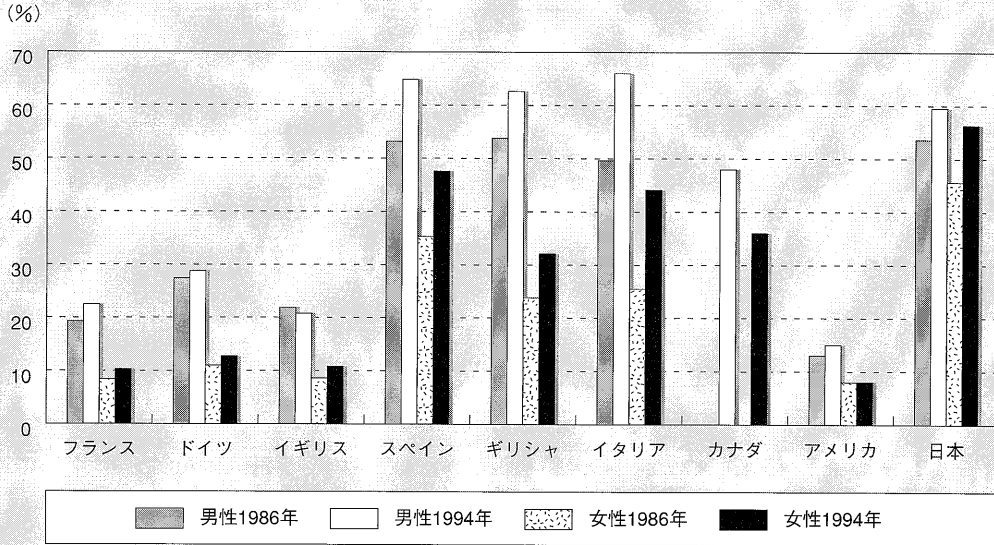


図表2-1-22 諸外国の親と同居している者の割合（20歳代後半層）



資料：アメリカ：Department of Commerce, Bureau of the Census Statistical Abstract of the United States 1996、仏、独、英、伊、スペイン、ギリシャについては、Juan Antonio Fernandez Gordan, "Youth residential independence and autonomy: A comparative study," Journal of Family Issues, XVIII, 1997（すべてTakahashi and Voss論文で引用）。

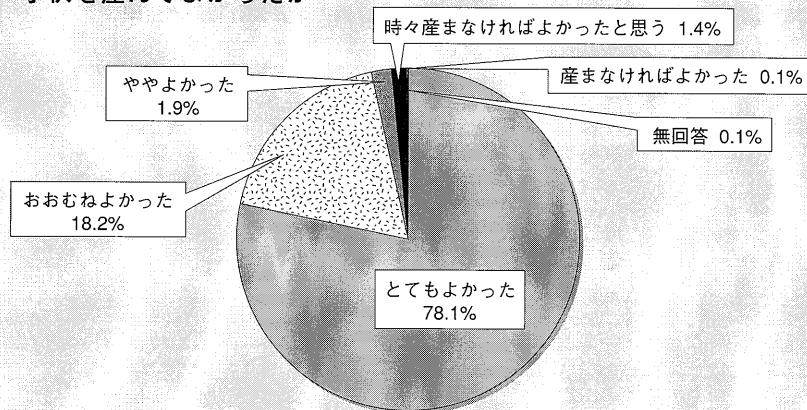
日本：厚生労働省「国民生活基礎調査」の特別集計による。  
 (注) 日本は20～29歳層、アメリカは25～34歳層、その他の国は25～29歳層を対象としている。  
 日本については、1986年～1998年、アメリカについては1985年～1995年のデータである。

## 第2節 子どもの育ちの現状と課題

### <子育て・子育ての現状>

- 多くの母親は子供を産んでよかったと感じている（図表2-2-1）。一方、1981（昭和56）年と2000（平成12）年で母親意識を比較すると、子どもといると楽しいと答える母親は9割弱で変化はないものの、子どもといると「イライラすることが多い」と答える母親は10.8%から30.1%に増加してきている（図表2-2-2）。

図表2-2-1 子供を産んでよかったか



資料：「児童相談所における児童虐待相談処理件数の増加要因に関する調査研究—児童相談所調査及び保健センター母親調査を通じて—」（社）恩賜財団愛育会「児童環境づくり等研究事業」主任研究者：加藤曜子（2001年）